

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年3月26日

事業所名 仙台市袋原たんぽぽホーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		コロナ感染予防のためソーシャルディスタンスに配慮した。	
	②	職員の配置数は適切である	○		職員数は定員を満たしている。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動ごと場所を分ける、全体の流れや作業の手順、活動の開始や終了等を視覚化する等、発達段階に応じて見てわかる工夫につとめている。また、保護者とも意図を共有している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		感染予防のため例年よりもこまめに清掃、消毒を実施してきた。 ・換気やゴミ箱の中身をこまめに捨てる等も実施した。 ・空気清浄器を設置し、清潔な環境づくりをした。 ・子どもの人数や状況に合わせ活動スペースを区切る等の工夫をし、活動に必要な物だけを提示するようにした。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		園内では、職員が交代で講師をしながら個々のスキルアップに努めている。（ペアレントトレーニング・ペアレントプログラム、面談技法等）園外ではコロナ禍であったが、リモートなどで研修に参加した。	研修の機会は設けられていたが、日々の中で対応に迷うケースについてケース検討を進めていきたい。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個々の特性や成長の具合を把握し、職員間でしっかり話し合いをしながら支援計画を作成し、保護者の気持ちに沿った形で面談を行った。	

適切な支援の提供

⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		子ども達取り組みやすいような具体的な計画を設定し、保護者にも実施することがわかりやすく提示されている。	
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		クラス活動、個別活動の中で目標に合わせた支援を取り入れている。	日々の反省時により丁寧に確認し、保護者とも日々のやり取りで意識的に共有していく。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		ルーティン活動は、あえて固定化しその他は子どもに応じて興味、関心を持てるようなプログラムを毎回工夫している。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々に合わせた個別のプログラムを提供している	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝全体で確認している。時間差で出勤する職員にも伝達するため、打ち合わせノートを活用している。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		活動終了後に全体の反省で他クラスの状況も把握している。	時間がかかることがあるため効率的に反省を行う工夫が必要である。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を行い、支援計画作成時に記入内容を振り返っている。また、支援内容に沿って記録を取っている。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		例年地域相談員が子育て支援センターや保健センター、児童館等に定期的に訪問を行っているが、コロナウイルス感染症のため訪問できないことが多かった。	
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		該当者なし	
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		該当者なし	

関係機関や保護者

との連携	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援シートを用いて訪問して引継ぎを行っている。また、入園後に訪問を実施している。	
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	該当者なし	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		市連協会議で情報交換をしたり、合同研修をしたりしている。	
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		意識的に保護者と話す機会を作り共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談日に保護者と話し合いを持ち、同意を得ている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談や個別活動の時間、連絡ノートを活用し保護者の思いをくみ取り職員間で共有した。	
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		要望には出来る限り迅速に対応している。また保護者の様子を気にかけて意識的に声をかけている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報に関わるものは施錠できるところに保管している。	
	③9	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			個々にあわせた対応を柔軟に考えていく。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナの影響で今年度は実施していない。	
非常時等	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		月1回火災、水防、地震、防犯に対応した訓練を実施している、感染症対応においては看護師の指導の下職員や保護者に研修を行い予防に努めている。	
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月1回、避難訓練を実施している。	

対 応	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		入園前に健康管理カードに記入してもらい、把握している。	
	④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修において、対応方法を確認している。	

※この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

